

第1回横浜市緑区地域子育て支援拠点運営法人選定委員会会議録	
日 時	令和7年11月12日(水) 9時30分～11時00分
開催場所	緑区役所2階 会議室2A
出席者	(委員) 西委員、臼井委員、正木委員、高林委員、渡部委員、安藤委員、松田委員 (事務局) 安達福祉保健センター長、竹内こども家庭支援課長、佐藤こども家庭係長、白井こども家庭支援担当係長、高田職員
欠席者	なし
開催形態	公開(傍聴者0人)
議題	1 横浜市緑区地域子育て支援拠点運営法人選定委員会について 2 委員長及び職務代理者の選出 3 地域子育て支援拠点の概要について 4 地域子育て支援拠点事業5か年度のまとめについて 5 運営法人の選定方法等について
決定事項等	1 委員長に西委員を選定する。 2 委員長職務代理者に臼井委員を指名する。
議事	1 横浜市緑区地域子育て支援拠点運営法人選定委員会について (資料2により事務局より説明) 【事務局】本日は委員7名中7名全員の御出席をいただいているので、定足数を満たしている。 2 委員長及び職務代理者の選出 【事務局】要綱第4条第2項の規定により委員長は委員の互選により選定することとなっている。どなたか立候補または推薦はあるか。 【高林委員】西委員を推薦する。 【事務局】西委員に委員長就任いただくことでよろしいか。 【委員一同】異議なし。 【西委員】了承。 <ここから司会を事務局から西委員長に引き継ぐ。> 【西委員長】緑区のことは地元の皆さんがすごく知っている。そのことを委員会の中で生かしていただいて進めていただきたい。 【西委員長】要綱第4条第4項の規定で委員長職務代理者の指名を行うことになっている。地域の代表であり緑区連合自治会会长会長である臼井委員にお願いしたい。 【臼井委員】了承。 【西委員長】本日、傍聴の申出はあるか。 【事務局】傍聴の申出はなし。

	<p>3 地域子育て支援拠点の概要について (資料3により事務局より説明)</p> <p>4 地域子育て支援拠点事業5か年度のまとめについて (資料4により事務局より説明)</p> <p>【西委員長】これは相互に話し合って課題を出しているということになるのか。事前につけたものに若干ずれがあるものもあるということか。</p> <p>【事務局】協働事業となっており、拠点としての役割、区としての役割をそれぞれ果たせたかどうか踏まえた評価となっている。</p> <p>【高林委員】基本的なことになるが、何歳までの子どもが対象か。</p> <p>【事務局】拠点としては、未就学児を対象としており、学校に上がる前の親子に利用していくことを前提に運営している。</p> <p>【西委員長】5年間の課題となっているが、毎年見直しは図られているのか。</p> <p>【事務局】毎年年度初めに単年の事業計画を立て、年度末に取り組みの振り返りを行い、ホームページでも公表している。</p> <p>【西委員長】5年間を通じて課題として残っているのが、この成果と課題ということで、この課題が緑区として取り組みたい課題の中心のひとつ、それぞれの項目になるというふうに受け止めてよいか。</p> <p>【事務局】緑区の拠点としての課題と考えている。</p> <p>【西委員長】今後の5か年に繋がっていくものとして、こういうところが問題じゃないかとか、この結果を見て感じるところ言葉に出していただき、審査に生かしていくと良いと思うがいかがか。</p> <p>【高林委員】5年前の選定の時も携わらせていただいたが、緑区の地図は見るとわかるが細長く、拠点は十日市場のいっぽ、サテライトができた長津田と西の方にしかない。どこかに拠点を設けないといけないのは理解しているが、東本郷地区、鴨居地区、区役所の周りの中山地区では、いっぽの案内をしているがなかなか足が向かない。区の端にいる者からすると、「十日市場のいっぽ」という認識で、それはずっと感じている。子どもの包括拠点としての機能を果たすのであれば、高齢者の包括センターは各地区的ケアプラザにあるのだから、ケアプラザの中に子育て支援拠点いっぽの事務所みたいなものがあればどんなに地域が離れていても行ける。東本郷は週1回開催のぐりーんピースの子育てサロンに頼りきりになっている。行政と繋がる、繋げたいご家庭も多いのでもう少し事業を分散型にしていただくのが理想かと思う。地域の人口の割合だけでなく、中山・鴨居の方に既存の施設に小さい事務所を作つてもらいたい。いっぽが良い取り組みをしても地域に繋がっていないか。 それから、もっといっぽの特徴を出した方がいい。緑区は名のとおり緑が多い。ららぽーとにある都筑区のポポラに鴨居地区はお世話になっているが、</p>
--	--

	<p>公園遊びとかはできない。ケアプラザの中に支部みたいなものを作ってもらえば、東本郷のケアプラザの前に子どもたちが遊ぶ大きな公園があり、それを生かしてそこでイベントを開催するなど、公園遊びとか緑に触れ合う事業とか、もっと緑区ならではの子育て拠点の色を出してもらいたいなど切実に思っている。</p> <p>【西委員長】アンケートを取る時にどの地域の方が一番使っているかなど、利用者の地域別の統計はあるのか。拠点事業は1か所でも、連携事業としてぐりーんピースや保育園とかいろいろある。連携の事については評価が若干分かれるところもあり、今後意識されるといいと思っているが、どの地域の人が主にひろばとして利用しているかなどのデータはあるのか。</p> <p>【事務局】昨年度拠点システムが新しくなり、この5か年での統計を出すのは手作業になってしまふが、今後については登録している人を入館システムから把握することが可能になってくる。今回の資料ではお示しはできないが、長津田のサテライト利用者は長津田地区の方が、エリア外・からの利用の方は十日市場のいっぱいを利用している。東本郷、鴨居、中山エリアからも利用していただいている方は一定数いる。</p> <p>【西委員長】中学校区に1か所あると良いというのがひろば事業としてあって、拠点が統括しつつ連携を取る形で、新たにサテライトを作るのは難しいだろうと思うため、保育園での地域支援強化とか、そういう事が次の5か年で進められると良いと思う。</p> <p>【渡部委員】さらにもう一歩といういう事だが、ケアプラザと連携した部分に関して、拠点の中でも、外国の方とか、発達に気になる方とか今の状況にあった対応しているかと思うが、それがもうちょっと地域に広がっていくようなイベントを展開するとか、東本郷の方では地域福祉計画とかでも出ている意見なので、そういうことも考えて行くと良い。</p> <p>あと、子育てサポートシステムで、定期的に数も増えて努力されている成果かと思うが、多くの区民の参画を得られているという評価項目で、提供会員の方々がどうしてもシニアの方が多いのではないかと思う。働いている方が増えてきて、地域の活動も民生委員さんのなり手も含めてなかなかいなくなっている中で、増えない状況かと思う。緑区に限らず他もそうなのではないかと思う。ここはいくら努力しても成果が出にくい環境があるかと思うので、横浜市全体で仕組みのアップデートという事が何か図られるものがないのかと思う。努力を十分しても成果がなかなか出ないのでないかと。</p> <p>【西委員長】子育てサポートシステムは、全国的に努力はしているが、提供会員確保の成果が出にくいといわれている。高齢化が原因だとしたら、相互会員を広めていったりとか、どうチェンジしていったらいいのか。</p> <p>【事務局】現在も、両方会員という利用者であり、お預かりもという会員を引き続き御案内しているものの、なかなか難しさもある。</p>
--	---

	<p>【高林委員】子育てサポートシステムに登録に行くのも、いっぱいに行かないといけないとか、研修を受けなければいけないとか、身近に感じられない。それこそ、ケアプラザで説明を受けられるとかいう形をとれば、要員はかなりいると思う。社会福祉協議会でもたくさんのボランティア登録をしていただいて、家事支援とか病院の送迎とかをしているが、いちいち区役所に行かなければいけないとか登録の手間があり、ハードルをもっと低くしないといけない。これはいいのは分かっているが、ただ登録に行くのが面倒くさいというだけ。ここを緩めてもらえばもう少し広がる。</p> <p>【西委員長】緑区の地形の特性が関係している。JRが4駅もあるので手続き等利用しやすいようにどう分散するか。今回の選定に限らず行政全体の方の課題。</p> <p>【事務局】拠点事業をどうするかだけではなく、支援の環境、協力していただいている方をどう巻き込んでいくのか。拠点のようなものをそれぞれのところに置けば一番いいが、急には難しい。お話があったような出張説明会とか、登録ならDX化のような話とか、出張研修会を年何回やりますとか、そういうやり方はあるかもしれない。例えば毎日は難しいかもしれないが、週1回、月1回で相談窓口を移動で行っているとか、出来ることからいろいろ考えて行くというはあるかと思う。もし選定の中で法人がそのようにやるという話があれば、お金も人もかかる話なので同じ委託料の中でできる話ではない。この選定とは別に、今後の課題の一つとして検討していきたい。</p> <p>【高林委員】渡部委員から話があったように、今ある既存のケアプラザが各地区にあるので、ケアプラザを利用するのが得策で、地域の人と関わる事ができるのもケアプラザなので、例えば登録の研修もその地区的ケアプラザでZOOMで受けられるとか、登録用紙はそこにありますとか、そういう事を考えれば広がっていく。主任児童委員は各地区2名ずついるので、ケアプラザに行っていだくと繋がりはいくらでもできるのかなと思う。</p> <p>【事務局】現在も入会説明会として出張説明を実施しているが、委員が言われたような定期的に毎週何曜日に相談できるというようなことは難しい。親子のひろばと協力したり、保育園の育児支援センター園と協力して場所をお借りして出張説明を行ったり、個別に家庭訪問をして説明するなど工夫をさせていただいているが、遠方の皆様に利用がしやすいようにというところの工夫は課題となっている。</p> <p>【西委員長】共働き世帯もサポートしていくという評価の言葉があったが、日曜日は開設していないのか。それについて要望とかは出でていないのか。</p> <p>【事務局】全市的に7割以上が共働き世帯ということがあるので、日曜開催については要望があり、今年度、4回の日曜開催の取り組みを開始している。4回の取り組みとしては、ひろばをオープンするとか、気になるテーマを決めてイベント的に開催するなどしている。周知の問題等あるが働いている世帯への支援、日曜開催についてはそのように考えている</p>
--	---

【西委員長】国籍も含め、多様化している中、テーマが決められると違うかなとなってしまうので、テーマも大事であるが平日だけではなく考えられると良い。地域で生まれる時から繋がれるような、日常的な居場所というのも考えられるといいなと思う。

5 運営法人の選定方法等について

(資料5の説明の前に、先ほど説明した資料2について訂正を依頼。1設置目的の2行目を次のとおり訂正。 誤：平成28年 →正：令和3年)

(資料5、6により事務局より説明)

【臼井委員】今回評価するのは、この1法人でいいのか。

【事務局】提案法人は1法人です。

【西委員長】プレゼンの後、質疑応答はどのくらいの予定か。

【事務局】プレゼン20分、その後質疑応答も20分を予定している。

【西委員長】その中で、案としてつけたものがプラスマイナスされるという事で良いか。

【事務局】会議までにつけてきていただき、実際プレゼンを聞いて違ったなという場合修正していただく。

【高林委員】いっぽを周知するというところで、赤ちゃん訪問で生後4か月までに資料を届けるという事業があるが、新しくなった子育て応援ガイドブックとか、第1子の保護者が参加できる赤ちゃん教室や各地区で行っているひろばなどのご案内の書類を届けているが、その時にいっぽの説明が何もない。以前はあったが、ある時からなくなった。ぜひいっぽのパンフレットも渡すとともに周知されるのではと思う。また、子育て応援アプリ「パマトコ」の周知を皆さんしていると思うが、意外と若い人はホームページとかこういうものを見ない。TikTokとか違うサイトなど自分が見たいものは見るが、子育ての情報は紙ベースであったほうが良い。赤ちゃん教室の日程があるよと言えば紙ベースで取っておいてくれる。みんなが思っているよりも紙のもの全部が全部デジタル化するのがいいというわけではない。ぜひ紙ベースもきちんと作ってほしい。今年度ガイドブックは小さくなって持ち運びができるようになりとても好評。ガイドブックにいっぽの事が書いてあるが、1ページめくってではなく、単独のパンフレットがあるとよいと思う。

【西委員長】これは、広報についての要望という事で受け取っていただければと思う。

(事務局より事務連絡)

次回、第2回選定委員会は、11月27日（木）9時30分開始

また、11月21日（金）港北区地域子育て支援拠点の視察を実施

<終了>

資 料 ・ 特 記 事 項	<資料> <ul style="list-style-type: none">1 【資料 1】委員名簿2 【資料 2】横浜市緑区地域子育て支援拠点運営法選定委員会について3 【資料 3】緑区地域子育て支援拠点の概要4 【資料 4】緑区地域子育て支援拠点事業 5か年のまとめ5 【資料 5】緑区地域子育て支援拠点 運営法人の選定方法について6 【資料 6】横浜市緑区地域子育て支援拠点 運営法人選定委員会 評価指標7 【資料 7】地域子育て支援拠点の視察について <p><特記事項></p> <p>次回は、11月 27 日（木）9時 30 分から 11 時 緑区役所 2 階会議室 2 A にて開催。 また、11月 21 日（金）14 時から、港北区地域子育て支援拠点の視察を実施。</p>
---------------------------------	--